

IMF ダイレクト・ブログ:

高まるアジアの声ー世界の政策構築におけるアジアの声とリーダーシップ

篠原尚之

高まり続けるアジアの声ーIMF、そして世界はその声に耳を傾けています。

私は今、韓国の大田市からこのブログを書いています。IMF と韓国政府は、これから二日間の予定でここ大田市で[ハイレベルの国際会議](#)を開催します。

[アジア21：未来への展望](#)と題されたこの会議は、まさにアジアのリーダーシップについて検証を行う素晴らしい機会です。会議で話し合われる内容、そして予定されている参加者を見ても、アジアの専門知識や経験が多方面に渡り深いものであることが明らかです。

アジアの経済、分析、そして政策の面での成功を評価する声が益々広がるなど、今やアジアは、経済及び金融政策に関する世界的協議の場で、指導的な立場にあると言えるでしょう。

巨大な経済圏

アジアは既に巨大な経済圏を形成しており、今後も益々その重要性が世界的に増すと考えられます。アジアに関する様々なデータは驚くべき数字を示しています。今日アジアは、世界の人口の半分以上を抱え世界の国内総生産（GDP）の25%以上を占めています。20年後には、世界のGDPの40%以上を占め、米国とEUを合わせた以上の規模になると考えられます。

アジアの成功の主な秘訣はその開放性だと言えますが、これは同時に、最も深刻だった世界危機がアジアに波及したことを意味します。しかし、過去10年で行なってきた大々的な改革や健全な経済政策運営が、アジアの比較的速い回復を支えていると言えるでしょう。[IMFは最新の見通しの中で](#)、アジアは今年、中国の10.5%の成長に牽引され約7.75%の成長を遂げると予測しています（これは、4月の我々の予測から約0.5%ポイント上方修正したものです）。

地域主義の利点

一方、この度の世界的な金融危機でアジアが見せた頑強な力は、地域レベルでの協力と地域組織の構築の利点を改めて示すものとなりました。今日の世界経済では、ひとつの国若しくは地域だけで成り立つものではありません。ですから、危機への

耐性を高め持続的な回復を維持するためには、政策担当者による協調が重要なのです。

アジアが行ってきた危機対策の以下の2つの側面が、特に注目に値するといえましょう。

- 第一に、域内での経済監視と分析がアジアでは本格化しており、起こり得るショックと各国の連関について、より深い知識を提供しています。
- 第二に、危機に対してアジア地域の融資メカニズムが果たした役割（例えば昨年3月のチェンマイ・イニシアチブの強化など）は、アジア地域以外の取極め（米国の連邦準備制度とのスワップライン制度など）の活用も含め、政策上の協調がいかに一層効果的な国際金融のセーフティネットの構築に寄与するかを示しています。

国際的関与と重要性

同時にアジアは、導入した政策や地域レベルでの協力により、現在の経済力を得ることができ、今では模範的な立場に立っています。結果、アジアは、国際的な重要性を益々高めているのですが、往々にしてアジア地域に長く根付いている多国間での協調的な対話を行うことによっても、その立場は重要なものになっています。

これは、G20の中のアジアの占める割合に見て取ることができます。[G20メンバー](#)のうち、オーストラリア、中国、インド、インドネシア、日本、そして韓国の6ヶ国がアジアの国です。さらに、[バリー・アイケングリーン](#)がG20について「世界経済の諮問委員会としての姿を現した」と述べたおりしもこの時期に、新興市場国としては危機後初めて、今年韓国がG20の議長国をつとめます。[G20の相互評価プロセス \(MAP\)](#) は、アジアの協調的な経済分析というスタイルを体現したものだといえるでしょう。

またアジアは、金融安定理事会やバーゼル銀行監督委員会といった主要な標準策定機関への参加を通して、改革プロセスにも貢献しています。さらにアジアは、世界金融危機の際も、金融支援の拠出を行うという重要な役割を果たしました。アジアの複数の国が、IMFの[新規借入取極 \(NAB\)](#) の拡大のための拠出を誓約するなど、IMFの融資能力の強化に合意しました。まず日本が先陣を切り、[1,000億ドルを出資し](#)、その後すぐに韓国、中国、インド、そしてシンガポールが続きました。

温故知新

ここまでこうして協調についてお話してきましたが、IMFの先人たちのビジョンは、驚嘆に値します。IMFの設立の目的は、[IMF協定](#)が明確に示しているように、「通貨にまつわる国際的な問題について話し合いと協調を通し……通貨に関する国際協力を促進する」ことです。

それから 65 年経った今 IMF は、アジアの経験を活かすとともに、IMF の協調という精神を蘇らせる好機にあります。我々 IMF は今年、IMF のガバナンス構造が世界経済の新たな秩序を反映するものとなるよう、アジアのボイス（投票権）の拡大に向け、ガバナンス改革に取り組んでいます。同時に、我々は IMF のアジア出身のスタッフの増加に向け、引き続き取り組む必要があります。

しかし、アジアの真の声に耳を傾けるためには、アジアの加盟国と我々の関係のあり方も変える必要があるのです。例えば、金融のセーフティネットの改善や G20 の MAP を基にしたピア評価のより実効的なネットワークを構築するための手段を考える上で、IMF はアジアの経験から学ぶことができるのではないかと考えています。

世界は、世界経済の成長を維持するという観点からのみならず、明日の現実と向き合うための政策メカニズムの構築という観点からも、アジアのリーダーシップを求めています。

私はここ [大田市](#) で、IMF のスタッフそして、アジアの政府高官、著名な財界のリーダー、金融市場専門家、学界や市民社会の代表といった、第一人者の方々と共に、世界経済の課題に立ち向かう上での IMF とアジアの新たな協力のあり方を考える貴重な機会に臨むことになるのです。

2010 年 7 月 11 日、IMF ダイレクトに掲載